

1 石川県 中能登町議会

「能登半島地震における被害の概要と行政対応。復旧・復興の現状と課題。防災施策のし直し等具体例。発災後の議会対応について」

概要

- ・公設の避難所は最大で9ヵ所開設（自主避難所16ヵ所） 中学校には教室も含め10日間、600人が避難
- ・避難所は職員が延べ76日間交代制で運営 炊き出し等は支援団体が対応
- ・震災後は①マンパワー不足②予算不足③専門技術職の不足が顕在化
- ・災害ゴミは被災した指定避難所を仮置き場として開設 民家からの距離や車列の整理が課題
- ・議会は職員の仕事を妨げない活動に注力 直後の3月議会は一般質問を見送り

所感

- 2次避難所である体育館に避難が集中したとあり、1次避難所の耐震化は喫緊の課題だと感じた。
- 災害ごみ置き場は、災害の規模や現場の状況に応じて対応できるよう、柔軟性を持たせる必要性を感じた。
- 議員も被災者となった状況から、半数の議員が防災士の資格を取得した機動力は当事者ならではの感じた。

2 石川県羽咋市 JAはくい 営農部のと里山農業塾

「有機農業実施計画の概要と課題。農地の担い手確保の現状と展望。慣行農業従事者との共有。行政との共同について」

概要

- ・目標は羽咋市内での地産地消の推進であり、都会の若者に羽咋の農業を仕事の選択肢に
- ・自然農の聖地化プロジェクト①道の駅の活用②ふるさと納税③産学連携④認証制度の確立 に取り組む
- ・自然栽培は小規模がカギであり、経営規模4ha・農家所得700万を目標に
- ・自然農は資材販売が主のJAに出番がない 販売面で農家と消費者のパイプ役に徹し、結果的に担い手確保へ
- ・取り組み当初は米価600円/㍓でもインパクトがあったが、羽咋米＝自然農という認知度が向上し、今では1200円/㍓（令和の米騒動前）で取引されるまでになった

所感

- 取り組み当初から『農業はどうあるべきか』『JAはどうあるべきか』を追求したとのことで、とても哲学的な取り組みだと感じた。一方で、市職員やJAでも理解者は1割で、無理くりやってきた（講師談）ものの、担い手が確実に増えてきている現状に学ばされた。9割の反対がある中で続くことが不思議ではあった。
- 慣行農家との軋轢はなく、自然農はそもそもが小規模なので相手にされていないという。これも不思議。
- 羽咋米＝自然農という認識が広がっているのは、行政とJAの情報発信力の賜物と感じた。

3 福井県 あわら市議会

「行政DX推進における現状と課題。DX推進事業の概要と各分野での具体施策について」

概要

- ・最初に「デジタルを使える人を増やす」ことを目標にICTアドバイザーを委嘱し、庁舎内にDX推進員を育成

DX推進員は当初各課1名を任命していたが、R4から手上げ式にしたところ、13課から20名が立候補

- ・企業との連携協定など、産官の連携事業から後に学が加わり、産官学の連携プロジェクトに進化

・教育現場の DX は教職員の負担が増えるため、DX に振り回されないように教員に任せている一方、統一性や継 続性は今後の課題

所感

○職員の出退勤管理による経費削減や、フレイル予防、防災情報の一元化、プログラミング体験の推進など、行政も市民も広く実感できる成果を生み出していることが伺えた。

○教育現場での DX 推進について現場に任せたことによるメリットデメリットを率直に受け止めていた。教育分野だからこそ、DX に振り回されてはいけない、という信念が素晴らしかった。

4 福井県池田町 ウッドラボ池田

「林業振興について。ウッドラボ池田の視察他」

概要

- ・人口 2000 人ながら、森林組合の他、林産会社 1 社、製材会社 1 社、個人事業主数名を抱える林業の町
- ・かつての賑わいはないものの、現役世代の先代は林業に携わっていた世帯も多く、林業は身近な産業
- ・100 年の森プロジェクトの柱は「木材生産」であり、目標は【木の資源を活かす社会づくり】が明確
- ・プロジェクトの一環として、建て替える庁舎は木造を予定しており、既に材木のストックが進んでいる
- ・収益を確保するために、市場に出さずに山土場での販売にも取り組み、官民一体で経営改善を目指す
- ・財産区はなく、20 余りの生産森林組合は業者に管理を委託してい 経営管理制度により町への山林の寄付も

所感

○10 年前の 2015 年には人口 3000 人の町が、人口減少の中でそれでも森と暮らすことを選ぶ背景に、良い意味での開き直りや覚悟を感じた。便利な暮らしの追求ではなく、町の資源を最大限に活かし、池田町らしさを追求する姿勢に、合併議論も跳ね返すたくましさを垣間見た。

全体を通じて

○池田町には世界一幸福度が高いとされるブータンから視察が来るという。羽咋市の自然農や池田町の 100 年の森プロジェクトの話を聞く中で、小さくてもブレずに追求することで内外に認められる地域なることを学んだ。そこにあるのは町とは何か、自治とは何か、農業はどうあるべきか、といった哲学的な教訓が通底していると感じた。中能登町の防災施策やあわら市の DX でも、各施策のポイントとなる視点を示していただき、箕輪町の到達や議会の在り方に多くのヒントをいただいた視察だった。